

第 6 回和泉デイサービスセンター運営推進会議 会議録

事業所名	和泉デイサービスセンター わくわく館
開催日時	平成 31 年 4 月 25 日（木） 14 時 00 分～15 時 00 分
開催場所	和泉デイサービスセンター 会議室
参加者	利用者家族 2 名 和泉自治会会長 1 名 和泉民生委員児童委員協議会民生委員 1 名 老人クラブ和泉会会長 1 名 大野市民生環境部健康長寿課企画主査 1 名 介護支援専門員 1 名 大野市社会福祉協議会事務局 2 名 事業所職員 2 名
議題	① 収支状況等について ② 利用者の状況について ③ デイサービスの状況について ④ 転倒などの事故及びその対応策について ⑤ 苦情、要望などについて ⑥ 非常災害時の対応について ⑦ その他
会議録	
【収支状況等について】 平成 30 年度の収支は総収入が 25,823,410 円、総支出が 26,562,008 円となり、平成 29 年度に比べ大幅に落ち込み差額が-738,598 円となりました。赤字になった原因として、収入が減ったのは冬期間の利用者の落ち込みが顕著に出て、入所や家族のもとに引っ越すなどの件数が増え、利用者の数が減ったためだと考えられます。支出が増えた原因としては、施設が社協の管轄となり土地代等の借地料がかかるようになりました。また、降雪時の除雪を行うのに、タイヤクローザーをレンタルするようになりました。さらに滅菌器が壊れ修理を行ったためだと考えられます。 【利用者の状況について】 利用状況については、全体として利用回数が減りました。利用者の介護度の変化は、介護度が悪化した人は 6 人、変わらない人が 9 人、介護度が改善した人は 1 人、未更新は 7 人となりました。本年度はインフルエンザの流行や大雪等などによる休館はありませんでした。 【デイサービスの状況について】 デイサービスの行事内容等に大きな変化はありませんでした。 【転倒などの事故について】 5 月 28 日、浴槽での洗身中、立位から、座ろうとして椅子に座り損ね尻もちをつく。事故の	

原因としては見守り不足が原因で、職員間で話し合いをし、対策としては特定の利用者に限らず、全利用者の見守りを今まで以上に強化することにした。

10月15日、利用者のトイレ時、車いすから便座への移乗を確認後、職員がその場を離れる。トイレが終わった利用者が1人で車いすに移乗しようとして、ブレーキを外してしまい、座り損ね尻もちをつく。怪我などはなく帰宅までそのまま利用される。事故の原因としてはトイレ使用時の移乗の見守り不足がり、対策としてトイレでの移乗時、座るまで確認し、トイレ使用後はズボンなどを上げる際に呼び出しブザーを押すように促し、職員が介助する。さらにトイレ時間が長いようなら中途確認することにした。

11月12日、帰宅時間になり玄関に向かう際、1人でベッドから車いすに移乗しようとして車椅子からずり落ちる。怪我などはなく帰宅まで利用し、次の日も利用される。事故の原因としては帰宅前であわただしくしており、ホールのすみにあるベッドに職員の目が届かなかったと言うことが挙げられた。また車椅子のフットレストを下ろしており、1人で車椅子に移ることがある方だとわかっていたのに見守り不足だったと考えられた。対策としては、利用者のベッドを職員の目の届きやすいところに移動させ、見守り強化を行った。

2月14日、体操中に椅子に敷いていた座布団がずれ、そのまま床にずり落ちる。怪我などはなく帰宅される。事故の原因としては利用者が座って体操しているときに椅子からずり落ちるかもしれないと言う認識が職員になかったためだと考えられた。対策としては椅子に敷いていた座布団を外し、利用者の見守りの徹底を行うことにした。

2月28日、朝和室に上がろうとし、掴まり損ねて床に尻もちをつく。怪我などはなく1日利用し帰宅される。事故の原因としてはいつもの場所だから大丈夫という思い込みが職員にあったからではないかと考えられた。対策として、見守りを重視し、認知症の方はどういう状態だと危険につながるかと言う本人の認識も薄い時があるため、職員全体で見守りをしていくことにした。

大きなけがにつながる事故はなかったが、見守り不足が事故につながるという事が多かったため、今後も事故防止に取り組み、安心安全な介護を行い、連携を図っていく。

【苦情、要望等について】

30年度後期の苦情はありませんでした。

【非常災害時の対応について】

施設では年に2回、避難訓練実施計画書を消防署へ提出し、1回目は自主訓練として7/19に、2回目は総合訓練として和泉地域福祉センター、和泉保育園との合同避難訓練を9/20に行いました。その他に11/13不審者対応訓練を行い、7/29に朝日板倉角野地区自主防災訓練へ参加しました。

【その他、質疑応答】

・事故が起きた際の家族への連絡はどうしているのか？

→すぐに家族に細かい説明を行い謝罪しています。

・事故の原因が見守り不足が多いのは職員の数が少ないのが原因ではないのか？

→職員の人員は減りましたが、人員を増やしたから事故が無くなるのではなく、やはり一人

一人の利用者の方の特性を理解することで、事故を減らしていけると考えています。

- ・ 事故の報告書を家族に渡してはどうか？

→ 第三者委員会で報告して検討してみます。(報告の結果、日報に事故の詳細を記載しているので、現状のままとなる)

【サービスに対する要望、助言などについて】

- ・ デイサービスのたよりを回覧等で全戸配布してはどうか。地域にデイサービスを知ってもらういい機会になると思う。(全戸回覧するには、たよりに利用者顔も掲載しているため、個人情報の保護に基づき現在検討中)
- ・ 地域の男性を取り込むようにして男性の利用者を増やせるといいと思う。
- ・ 家族を預けているので、事故をなるべく減らし、利用者一人ひとりの特性を理解し職員間で共有をしてほしいと思っています。
- ・ 地域の人の中には行くのが怖いと言う人もいるので、デイサービスがどんなところなのか、公に伝えていけると良いと思います。
- ・ 資料の転倒などの事故についての欄に原因と対策を記入してあるといいと思います。
- ・ 福祉センターが無くなり、見晴らしがよくなったことで逆に見られているという自覚をもって業務にあたってほしい。